

(2) 岐阜県立関高等学校における実践

<授業実践>

①授業実践に向けての構え

- ・中学校との授業交流を通じて、「コミュニケーション活動に積極的に参加する態度」の大切さを実感し、高校でもこれを継続する必要性を感じた。1年次の授業交流では、1年生のオーラル・コミュニケーションの授業を公開したが、2年次は、英語Ⅰの授業を公開し、教科書の題材を生かしたコミュニケーション活動を充実させるよう心がける。具体的には、読み取ることを中心にしなが、その前後に話すこと、聞くことの活動を関わらせていく。
- ・単元の指導目標を明確にし、単位時間の役割を位置付けた単元構想を練る。
- ・できるだけ日本語を介さない英語による授業を心がける。

②第1回授業交流研究会

【日時】 平成16年7月5日（月）

【公開授業】

- ・単元名： Polestar English Course I Lesson 5 "Look at the Person I am Inside"
- ・授業学校・学級： 岐阜県立関高等学校 1年8組（男子20名 女子20名 計40名）
- ・主な提案内容：
 - ①英語Ⅰにおけるコミュニケーション活動を充実させるため、本時の導入で前 Lesson の復習として、地元映画館の上映予定表を見ながら生徒同士相手を映画に誘う対話を行った。
 - ②単元の導入の授業の在り方として3つの内容を含むことを提案した。ア) 登場人物がどのような人たちなのか等、内容のアウトラインをつかむ。イ) 本 Lesson で新出の言語材料を紹介する。ウ) 単元終末に、自分の意見を手紙形式で書く活動を設定する。

【授業研究会】

- ・生徒たちの学習に向かう姿勢がよく、集中して取り組んでいる。
- ・地元映画館の上映予定表を使ったコミュニケーション活動は、生徒の実生活に結びついた親しみやすい内容で活動意欲を喚起していた。中学校に比べると、授業1クラスの生徒人数が多く、パートナーを変えながらの活動は難しいため、活動の形態を工夫するとよい。
- ・読みとりの視点をはじめに提示しているので、生徒にとって読みとる目的が明確である。
- ・語彙や文法事項の説明が丁寧になされていた。一方、概要・要点を読みとることと、語彙・文法学習が同時になされるため、ワークシートなどを活用して説明時間を短縮するとよい。
- ・単位時間（本時）に身に付けさせたい力を明確にし、ねらいの焦点化を図る必要がある。
- ・生徒の知的好奇心を刺激するように、コミュニケーション活動の目標を少し高めに設定する。

③第2回授業交流研究会

【日時】 平成16年11月24日（水）

【公開授業】

- ・単元名： Polestar English Course I Lesson 7 "The Power of Music"
- ・授業学校・学級： 岐阜県立関高等学校 1年9組（男子19名 女子21名 計40名）
- ・主な提案内容：
 - ①本単元のねらいを"Let's become a better and fast reader"と設定し、音楽を題材とした長めの論説文を、構成やポイントを把握しながら読む訓練をする。
 - ②授業者の英語での説明に慣れ、リスニングの力を向上させる。
 - ③自分の好きな音楽について英語で表現する力を養う。

④本時は単元の第1時として、全体から部分への方角で内容理解を図る Top-down 方式で行った。次の授業ではワークシートを活用し、Bottom-up 方式で部分から全体への方角で理解を深める。

【授業研究会】

- ・ Pre-reading、While-reading、Post-reading を意識して授業が展開されていた。Pre-reading で、好きな音楽について話し合う活動を通じて、話題についての興味・関心の喚起がなされていた。
- ・ 100%英語によるスピード感ある授業で、生徒もこれについて行っているのがすばらしかった。このような授業が継続的に行われることにより、力のある生徒たちをさらに刺激し、リスニング力を向上させることができる。
- ・ efficient reader になるために必要な要素を整理し、読む目的に応じた有効な読み方の技能を生徒が身に付ける指導をする必要がある。また、topic sentence を確認する時、1問1答に終わらず、どのようにしてその文を見つけることができたか、feedback する場面があるとよい。
- ・ 読みとりの窓について、生徒がどの程度読み取れているのかを把握し、評価する必要がある。
- ・ パラグラフリーディングの指導は、授業者個人にとどまらず、英語科担当者全員が指導方法を共有して行くと効果があがる。

<グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

【実施日時】 平成16年11月10日（水）

【受験者】 74名（1年生63名、2年生11名）

- ・ 1年生対象に、事前に趣旨説明をし、希望者が受験した。2年生の希望者も11名受験した。このうち7名は、前年度も受験している。

【結果分析】

- ・ セクション1（Listening Comprehension）とセクション3（Vocabulary and Reading Comprehension）は、前年度の平均点を上回った。分野別の平均点は、高い順にセクション1、セクション3、セクション2（Structure and Written Expression）であった。これは、朝読書や、朝リスニングの効果が徐々に現れているのではないかと思われる。また、前年度の受験者は1年生のみの80名であったが、今回は2年生の希望者も一部加わったことが考えられる。
- ・ 前年度末に、1年生全員を対象に「英語コミュニケーション能力テスト」を実施したが、今年度は、1・2年生全員を対象に実施し、さらなる英語力向上に努めたい。

<学習環境の充実>

①国際交流講演会

- ・ 実施日：平成16年7月23日（金）
- ・ 講師： 財団法人青少年国際交流推進センター事務局長 大橋 玲子氏
- ・ テーマ：「国際協力と国際交流」
- ・ 内容： 「東南アジア青年の船」事業のビデオを上映し、国際協力の場に出て行くために必要なコミュニケーションの力や、国際交流事業に参加することによる意識の変化などについて話され、生徒たちは熱心に聞き入っていた。
- ・ 対象者： 参加希望生徒
- ・ 生徒の感想：
「この講演に参加するまでは、国際交流や国際関係の仕事は華やかな表舞台の仕事だと思っていたけれど、何か国語もの言語を操り、世界各国を飛び回ることばかりが国際的とは言えないことがわかった。大切なのは、相手を理解しようとする気持ち、進んでコミュニケーション

ョンを図ろうとすることだと思った。東南アジアの国々に対しても、一方的に教えてあげるとか、支援してあげるというのではなく、対等な関係をもつことがすばらしいと思った。課題研究として、さらに詳しく調べていきたい。」

②外部講師による講座（実施期間：2月～3月）

- ・内容： 岐阜女子大学講師の小林憲一郎氏による講座「英字新聞の読み方」
- ・対象者： 1年生、2年生

③朝読書、朝リスニング

- ・朝読書：5月と11月に全校で実施した。読むものは生徒が各自用意することになっているが、英語の絵本や短編小説を購入し、生徒に貸し出しもできるようにした。
- ・朝リスニング：朝読書の期間後、1、2年生を対象に、放送で英語の歌のディクテーション等を実施した。

④英語検定

- ・毎年2回団体受験をしているが、今年度は「学力向上フロンティアハイスクール事業」と合わせて、1年生に対しては英語検定、漢字検定、数学検定を積極的に受験するよう勧めた。英検対策の問題集を購入し、2次試験に向けての個別指導を行った。

⑤「関高学カスタンダード」テキスト作成

- ・前年度に本校独自の教材として1年生向けに「関高学カスタンダード3級」テキストを作成した。生徒全員に共通に理解させたい例文や単語をまとめたものである。今年度は、さらに2年生向けの「関高学カスタンダード2級」テキストを作成し、1年生向けのテキストも一部改訂した。このテキストに基づき、「スタンダードテスト」を実施し、生徒たちに到達目標を示している。今後は、新入生向けの「学カスタンダード」を作成する予定である。

<成果と課題>

- 授業交流研究会に、中高両校の学校長も参加し、積極的に情報交換、意見交流ができた。
- 2年間にわたる授業交流研究会を通じて、中学校では「聞くこと」「話すこと」を大事にして授業が展開されていること、単元のねらいから評価方法に至るまで綿密な指導案が作成されていること等、多くを学ぶことができた。高校でも、各単元のねらい、つけたい力を以前よりも意識して授業計画を立てるようになった。
- 公開授業に向けての話し合いの中で、授業で扱う内容だけにとどまらず、指導方法についても、学年の担当者間で共通理解を図ることができるようになった。
- 「関高学カスタンダード」により、関高校1年生、2年生に対しては、明確な到達目標を示している。今後は、中学から高校への橋渡しをスムーズにするために、中学校の教科書に出てくる基本例文などをまとめ、高校入門期用の「学カスタンダード」テキストを作成する予定である。また、高校入学後できるだけ早い時期に学習方法についてのガイダンスを綿密に行い、中学校で培ってきた「コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度」をさらに伸ばすと同時に、高校での授業における多くの情報量に対応できる生徒を育てていきたい。
- △高校3年間のどの時期にどのような指導をするのか、英語科担当者全員が見通しを持ち共通理解することにより、授業者による大きな差異のない安定した授業を提供していきたい。
- △2年間にわたり、関高校では1年生担当者中心に中高連携の授業交流をしてきた。今後は、高校2年生、3年生における授業も含め、中高6年間の指導の到達目標を具体化し、中高連携による一貫した流れのある指導を心がけていきたい。
- △「学習環境の充実」のために購入した書籍などを、今後も積極的に活用していきたい。また、外部講師による講演なども生徒に好評であったので、何らかの形で継続させたい。